

特集

クラブハウスを活用するクラブ

ふれあい佐布里スポーツクラブ ＜愛知県知多市＞

総合型クラブが事務作業等を行うための事務局スペース、会員や地域住民が自由に交流・談話できるサロンスペースを有したクラブハウス機能を確認することにより、地域の誰もが自由に交流できる場を提供することはクラブにとって活動基盤となり得ます。

そこで、既にクラブハウスを活用し、地域づくりや活性化に貢献している事例を紹介します。



1. 小学校が使用していないスペースをクラブハウスに活用
2. 市と学校側の支援で借用料は不要、水道・電気料金は市が負担
3. 学校敷地内への拠点設置で学校での子どもたちの様子をうかがい知れる

1 クラブ概要

平成19年に、知多市の「スポーツ振興計画」が見直された時に「総合型地域スポーツクラブ」を設立する計画が提案されました。その基本方針の一つとして、市内の10小学校区にそれぞれ設立するというのが示されました。それを受けて、まずモデル地区を決定して進めていくことになり、佐布里地区が選ばれました。そこで、当地区では、生涯スポーツ課に勤務していた生涯スポーツ指導員(鰐部)を中心に、地区の各種団体(コミュニティ・老人クラブ・スポーツ委員会等)の役員に呼びかけ、設立準備委員会を立ち上げ、クラブ設立へ向けて動き始めました。委員会では、まず、地区の状況や住民の意識調査を行い、その調査結果を受け、「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽に参加できるクラブを目指す」ことを「理念」とし、活動を始めました。

会員の要望や意見に耳を傾け、誰もが参加しやすい環境をつくることを目的に、開催日・種目・場所・方法等について、協議を重ねてきました。平成21年度に設立し、設立から6年目を迎えた平成26年10月には「生涯スポーツ優良団体」として、文部科学大臣から表彰を受けました。

今年度で設立から10年目を迎え、会員数も設立当時の250名程度から400名を超える人数になり、ここ数年は微増を続けています。活動種目も13種目になり、会員の様々なニーズに応える体制を整えています。日々の活動への参加状況も、1週間(4日間)を通じて、毎週延べ約300人の参加が続いています。

2 小学校の旧用務員室を無料で借用、改装・一部備品調達は自前で

当初、クラブハウスについては設立準備委員会であまり話題になりませんでした。しかし、クラブ設立の準備を進めていくうちに、用具の保管・常時活動・会議室等の観点からクラブハウスを保有することが重要であると考えられるようになりました。また、先進地区(豊田市・北名古屋市等)を見学した時に、どのクラブもクラブハウスを所有し、有効に活用されていることを知り、その必要性を痛感しました。その後、小学校体育館や公民館の会議室、個人の家等を考え検討しましたが、いずれもこれといった決め手がありませんでした。地区内を探している内に、小学校の旧用務員室が、倉庫として利用されているという情報を得ました。実際に見学に行くと、使用できなくなった机やいす、壊れた運動用具等が所狭しと置かれていました。そこで、学校と市教育委員会に借用できないかをお願いしたところ、「倉庫の中をクラブで整理すること」を条件に許可をいただきました。

倉庫の中は、以前に人が住んでいたため、風呂とトイレがあったり、細かな間仕切りがあったりで、クラブハウスとしてはやや機能性に欠けていたため、市にお願いして風呂とトイレを除去してもらうことにしました。細かい間仕切りの撤去・畳の入れ替え・下駄箱の設置等は、会員の有志にお願いしました。エアコン・冷蔵庫・時計・蛍光灯・整理棚等は、クラブで購入しました。事務机・長机・いす等は、学校からいただきました。電話については、当初置いていましたが、使用頻度が低いということで撤去しました。水道料や電気料は、市教育委員会にお願いしたところ、市の予算で賄っていただけることになりました。クラブハウスの借用料と維持経費はほとんど不要ですが、今後は、建物の老朽化に対してどう対応していくかが大きな課題であります。

3 廃屋同様のスペースを再利用→市と学校側が 全面協力

こうした経緯からクラブハウスを保有するまでに苦労した点は、特にありません。市教育委員会がスポーツクラブのモデル地区として当地区に依頼した関係上、市生涯スポーツ課や学校が全面的に協力していただき、保有に関してはスムーズに事が運びました。また、廃屋同様の扱いを受けていたスペースを再利用するということで市当局の賛成も得ることができたと思います。

クラブハウスで行っている具体的な活動

- 体育館で活動する各種目の用具の保管をしています
 - ・放送設備・卓球・バドミントン・ミニテニス・ビーチボールバレー等
- 囲碁・将棋を、毎週火・木・土の午前9:00～11:30まで行っています
 - ・参加人数は、毎回10人～12人程度です
- コーヒーメーカーを活用してコーヒー募金を実施
 - ・できたコーヒーをポットに入れて各活動場所へ運び、参加者に募金制で飲んでもらっています
- 運営委員会等の会議を開いています(月1回程度)
- たより・会員名簿・会員証等の保管をしています

小学校の敷地内に拠点(クラブハウス)を置くことによる特徴・良かった点

- 体育館で活動するための用具等を保管できる
- 印刷・コピー等を学校へお願いに行ける
- 週3日間、クラブハウスで活動することにより、学校での子どもたちの様子が分かる
- 他の施設だと有料になるが、小学校内のクラブハウスではほとんど無料になる



クラブハウス入口



囲碁・将棋(クラブハウス)

4

学校内設置で地域から信頼を得る→会員増の効果も

学校の敷地内にクラブハウスが置かれていることにより、地域の人たちから「信頼できるクラブだな」と思われるようになりました。また、学校公開日や行事等で、来校された方にクラブの存在を認識していただき、実際に、保護者や孫の紹介でクラブに入会したという会員もいます。囲碁・将棋の参加者からは「暑い時や寒い時にクラブハウスで快適な活動ができる。家にいるよりは、充実した1日が過ごせる」という声も出ています。

5

発足当初はクラブ理念・活動内容の周知に苦心

設立へ向けて動き始めた時から市教育委員会・地区スポーツ委員等から様々な支援がありました。その支援をもとに、設立準備委員が自信を持って地区の諸団体(コミュニティ・老人クラブ・民生委員・町内会等)に働きかけることができました。

ただ、市の支援があり、地域団体の役員の協力もありながら、それぞれの団体の個人個人の意識を高めない限り、活動に参加してもらえない実情がありました。回覧板や市の広報でPRしても、なかなか浸透していきませんでした。そこで、各団体の行事や集会に参加して、本クラブの理念や内容をきめ細かく説明しました。特に「継続できる」「できるできないは重要なことではない」「道具はなくても参加できる」ことなど、だれでも、いつでも参加できることを話しました。また、既に参加している方には、自分の周囲の人に話してほしい旨をお願いしました。さらに、スタッフや講師の先生には「技能を高めることも大切だが、楽しく活動できることが最も大切だ」という姿勢で臨んでほしいことをお願いしました。2年目3年目を迎えるあたりから、口コミの効果やスタッフ等の努力により、会員が急増して今に至っています。

6 会員の要望受け止め、活動種目増を目指す

現在、設立から10年目を迎えて、種目数を13種目まで増やしてきました。今後も、会員からの要望や意見を真摯に受け止め、運動・文化にこだわることなく種目数を増やしていきたいと考えています。また、参加者が自宅から徒歩で行けるような場所で活動できるようなシステムやプログラムを考えていきたいと思えます。さらに、クラブの基本姿勢である「参加して楽しく活動できるスポーツクラブ」を継続して進めていきたいと考えています。

(ふれあい佐布里スポーツクラブ 事務局長 鰐部 忠夫)

クラブ プロフィール

設立年月日	平成21年4月11日
所在地	愛知県知多市佐布里地区
運営	会員数436名(平成30年7月現在)、予算規模114万円(平成30年度) 男女比=女性63.4% 平均年齢=72.1歳
有給職員	15名(時給100円 1回上限300円)
特徴	高齢者の居場所づくりを目的に、地域住民の憩いの場や触れ合いの場として活動しています。また、スポーツクラブといっても、身体的な活動(9種目)だけでなく、文化的な活動(4種目)も含めた幅広い種目を採り入れて活動しています。さらに、会員であれば、週4日(月・火・木・土)にプログラム化されている13種目のどの活動にも参加できるようにしています。
連絡先	TEL 090-1821-7906(鰐部事務局長) URL https://www.city.chita.lg.jp/docs/2014012300384/ (知多市総合型地域スポーツクラブURL)



ペタンク(梅が丘グラウンド)



グラウンドゴルフ(にしの台2号公園)



囲碁ボール(佐布里会館)



健康麻雀(佐布里会館)



卓球・囲碁ボール(佐布里ダム記念館)



健康体操(小学校体育館)



唱歌・一般スポーツ(小学校体育館)